

色濃い地域性がふるさと人の愛着を育てる出発点



文



糸島市最西部に位置し、海と山の両方がある福吉校区。歴史ある伝統の福井神楽(ふくいかがら)や五穀豊穰・大漁祈願祭の福吉神幸祭(ふくよしんこうさい)など地域の伝統が根付いています。福吉小学校では「福吉を愛し、ともに生きる力を育てる」を教育目標に掲げ、福井神楽を学ぶ授業や米作り体験などを取り入れ、地域の人たちと一緒に子どもたちのふるさとへの愛着を育てています。一小一中校区を生かした小中連携のコミュニティ・スクールにも力を入れており、子どもたちは少し先の未来の姿を身近に感じながら福吉中学校の生徒と交流しています。

3年生の総合的な学習の時間に福井神楽を取り入れ、地元の福井神楽保存会の人たちがゲストティーチャーとして子どもたちに神楽の歴史や舞などを教えています。ミニ発表会に向けて、口上を練習する声が各家庭で聞かれるのも福吉校区ならではの。

小学校での授業をきっかけに神楽にどっぷりはまる子や、福井白山神社(ふくいはいくさんじんじゃ)に奉納される“本物”の福井神楽を見に行く保護者もいるようです。平成25年からの取り組みで、地域の伝統文化がしっかりと次世代へ受け継がれています。

授業の時間以外にも、地域の人とのつながりがあります。毎週水曜日の昼休みに開かれる将棋道場には、地域ボランティアの「おじちゃん」と将棋遊びや対局を楽しむ子どもたちの姿。下校時の電車を待っている間、駅の待合室で見守り活動の人と折り紙で遊ぶ姿。福吉小学校の周りではいろんな場所で地域の人たちの温かな心があふれています。



福井神楽ミニ発表会



昼休みの将棋道場